

平成25年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立金沢泉丘高等学校(全日制課程)

学校長 新屋 長二郎

1 教育目標

心身一如の発達につとめて

真理を求め、勉学を第一義とすること
情操を豊かにし、品位を高めること
誠実にして、社会から信頼されること

正義を愛し、自らを清くすること
自らとともに、他の人格を重んずること

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んできた。確かな学力を身につけさせるとともに、心身共に健全で品位と良識あふれる次世代を担うリーダーの育成をめざしている。
- ② 大学進学に関しては、県内有数の進学校としての実績を収めているが、世界を視野に高い志を掲げて学習させるとともに、第一志望を実現させることをめざしている。
- ③ 平成23年度に文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールの研究開発が3期目(5年間)の指定を受けた。生徒の興味・関心を高める指導法の研究をとおして、理数科だけでなく学校全体の活性化を図っている。
- ④ 「いしかわニュースーパーハイスクール」事業をとおして、人文科学、自然科学の両分野における幅広い素養を身につけ、総合力を備えた国際性に優れた次世代を担うリーダーの育成をめざしている。
- ⑤ 学校評価の実施、土曜スクール開校、校内職員研修の充実等を行い、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 確かな学力の育成
進学実績の向上をめざし、質の高い教科指導と学習意欲に応える授業を組織的に展開する。
- ② 豊かな心の育成
「心身一如」の具現化に向けた有意義な体験が展開されるよう、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の環境整備を図り、「ふるさとを想ういしかわのリーダー」に必要な人格の陶冶をめざす。

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 組織の活性化と指導力の向上
合理的・機能的な組織運営のため、職員の創意工夫を引き出す。そして、教職員が互いに教育実践をとおして、計画的に指導力の向上を図る。
- ② 開かれた学校づくり
本校の方針や特色ある取り組みを、積極的に県民に伝え、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

3 今年度の重点目標

創立120周年に当たり、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

- (1) 「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。
 - ・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。
- (2) 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。
 - ・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。
- (3) 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。
 - ・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携したボランティア活動の推進。

平成25年度 自己評価計画書

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
<p>「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。</p> <p>・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。</p>	<p>① 校内研究授業や自教科・他教科の授業見学などを通して、また生徒による授業評価なども参考にしながら、授業の質的な向上を図り、授業改善に取り組む。</p>	教務課	<p>従来から校内研究授業は、前期と後期に実施し、国語・地歴公民・数学・理科・英語は年2回実施している。また、他教科への授業参観も積極的に参加を促している。学習指導委員会等を活用しながら教科と連携し、校内研究授業に取り組んでいる。</p> <p>昨年度は、「授業が充実しているか」の値が3.34でありCになった。今年度は改善を目指したい。</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>生徒の授業に対する満足度が高まった。</p>	<p>「授業が充実しているか」の質問に対して、以下の①から④と答えた生徒の割合を算出し、順に4、3、2、1を乗じて、その値αを算出する。</p> <p>①「よくあてはまる」 ②「ややあてはまる」 ③「あまりあてはまらない」 ④「まったくあてはまらない」</p> <p>αの値が A 3.4以上 B 3.35以上 C 3.3以上 D 3.3未満</p>	C・Dの場合、授業改善に向けた取組みの再検討を行う。	生徒による授業評価を実施
	<p>② 基礎力の充実を大前提とした上で、難関大入試分析や東大・京大・医学部説明会等の充実を図る。</p> <p>3年生には、きめ細やかな指導ができるよう、模擬試験のデータ処理・分析等を工夫する。また、受験集団としての意識を高める工夫をしていく。</p> <p>2年生には、基礎力の充実に加えて、標準を超えるレベルの問題に対する対応力も育てる。</p>	進路指導課	<p>3年生は難関10大学及び国公立大学医学科への進学志望者が、240名を超えている。東大志望者は約30名、京大志望者約50名、医学科志望者も約40名いる。基礎学力を充実させ、応用力もつけなければ合格できない生徒が多い。</p> <p>2年生は、中間層の基礎力充実に加え、上位層を伸ばして、超難関大に合格できるような生徒を増やすことが必要である。</p>	<p>【成果指標】</p> <p>受験集団としての意識が高まり、東大・京大・国公立大学医学科の合格者が増加した。</p>	<p>東大・京大・国公立大学医学科合格者の合計人数（重複可）が、 A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人未満</p>	C・Dの場合、授業や3年間を見通した進路指導について、再検討を行う。	次年度の当初に入試反省会・検討会を実施
	<p>③ ホーム担任及び学年主任は、年間5回以上の個別面接指導を行い、生活面をはじめ、授業や家庭学習、校外模試に臨む姿勢など学習面について、個に応じた指導を行う。</p>	1 学年	新規購入のスマホに気をとられ、家庭学習が疎かになっている生徒が見受けられる。	<p>【満足度指標】</p> <p>個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上した。</p>	<p>「学年団の指導が、自分の学習姿勢や学力の向上に役立った」という生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	C・Dの場合、より効果的な個人面接指導のあり方について再検討を行う。	生徒によるアンケート調査を実施
	2 学年	高い学力を有し、絶えず努力している生徒がいる一方で、苦手教科の克服に苦勞している生徒や、未だに学習習慣が十分身につけていない生徒がいる。					
<p>④ 授業内容をより充実させるとともに、朝学習や放課後補習・個人添削等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を時機を逸することなく実施する。</p>	3 学年	<p>2年段階で東大志望者約30名、京大志望者約50名、国公立医学科志望者約40名、その他難関大志望者約120名となっており、全体的な進路意識は高い。</p> <p>1・2年次は学習習慣の定着と基礎基本の徹底を柱に指導し、上位者層には2年後期から添削指導を開始した。</p> <p>上位層が増えてきてはいるが、基礎学力不足の生徒も多く、学力に応じた指導が必要な現状である。</p>	<p>【成果指標】</p> <p>個に応じた指導により、第一志望の大学への進学が実現した。</p>	<p>難関10大学及び国公立大学医学科の合格者が、 A 100人以上 B 90人以上 C 80人以上 D 80人未満</p>	C・Dの場合、授業や補習、個人添削等の方法について、再検討を行う。	次年度の当初に入試反省会・検討会を実施	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりを目指し、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。 ・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。	① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高め心豊かで、将来リーダーとなる資質を育成する。	総務課	昨年は、主なものとして10月に全校生徒対象に「生き方講演会」(山崎直子氏)、11月に2年生対象に「社会人と語る会」、2月に1年生対象に「人権教育講話兼国際理解講演会」を実施した。 12月の講演会に関する生徒のアンケートでは、89%の生徒が満足している結果が出ている。	【満足度指標】 講演会を積極的に評価している生徒の割合が大きい。	生徒によるアンケートで「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、A(よくあてはまる)+B(ややあてはまる)の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、次年度に向け、講師の選定等を工夫する。	生徒へのアンケート調査を実施
	② 挨拶をきちんと行うことにより、相手を尊重する態度の育成を図る。教育活動のあらゆる機会を通して、しっかりとした挨拶の実行を促す。	生徒指導課	挨拶・会釈はほとんどの生徒が行っているが、自らすすんで大きな声で挨拶する習慣ができていない者が少ない。	【成果指標】 しっかりと挨拶が出来る生徒が多くなった。	挨拶・会釈に関して「自分はしっかりと挨拶をしている」と答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C・Dの場合、HRや学年集会を通して、再度指導を行う。	生徒へのアンケート調査を実施
	③ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図る。	生徒指導課	部活動加入率は高く、意欲的に活動している生徒が多い。しかし、その好条件が競技成績の向上に結び付いていないところがある。	【成果指標】 生徒主体の活発な部活動により、上位大会に出場する部が増えた。	県予選を突破し、ブロック大会以上の大会・行事等に出場した部が A 12以上である。 B 10以上である。 C 8以上である。 D 8未満である。	Dの場合、次年度へ向け、指導方法を工夫する。	県総体等の結果報告による。
	④ ISO活動を通して環境保全を意識した生活となるようにするため、美化委員会の活動を通して生徒のISO活動への理解を深める。	保健環境課	生徒の環境保全意識は概ね良好であるが、節電、ゴミの分別の面では不十分などところがある。	【満足度指標】 環境保全を意識して生活し実践している。	校内の環境保全活動に努めていると答えた生徒の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合、取り組みの見直し・改善を検討する。	生徒へのアンケート調査を実施
	⑤ 魅力ある充実した図書館をめざし、図書コーナーの拡充など読書・学習環境整備に努めるとともに、広報活動を積極的に実施する。	図書課	活字離れが著しい現代の若者の傾向は、本校においても例外ではない。豊かな人間性を育むためにも、読書習慣を身につけさせたい。	【成果指標】 図書館の利便性が高まり、図書の貸出し数が増えている。	1年間(1月末現在)の本の貸出し数が、 A 4,500冊以上 B 4,000冊以上 C 3,500冊以上 D 3,500冊未満	C・Dの場合、図書館便りや読書案内など、広報活動に一層努める。	月毎の貸出し数調査を実施
	⑥ 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間の連携を密にしながら、生徒一人一人が希望を持って学校生活を送ることができるよう支援する。	教育相談室	学習面でのつまずきや人間関係(友人関係・親子関係等)の悩みや漠然とした不安感などを持つことによって、学校生活に対する意欲を失いかけてたり、情緒が不安定になったりする生徒が見受けられる。	【満足度指標】 気軽に相談室を利用することで、精神の安定が保たれるようにする。	相談室を利用した生徒による学校評価アンケートの「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、(よくあてはまる)+(ややあてはまる)の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C・Dの場合、学年、関係各課室と連携して対策を検討する。	来室者へのアンケート調査を実施

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。 ・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携したボランティア活動の推進。	① 保護者懇談会、PTA 活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりをめざす。 今年度は創立 120 周年記念式典も実施される節目の年でもあり、機会を捉えて積極的に本校の教育活動を広めていきたい。	総務課	昨年度 PTA 総会参加者は 829 名で(一昨年 805 名)、参加率は 72 % (一昨年と同じ) とかなり高い。 4 年前から PTA 理事の希望制を取り入れ、役員・理事の組織運営が積極的に行われている。保護者懇談会はほぼ 100 % の出席率である。 教育ウィークの学校公開中の来校者数が昨年は 164 名と一昨年に比べ 56 名増加したが、より内容の工夫をしながら増やしていくことが課題である。	【成果指標】 本校の教育に対する保護者等の関心が高まり、学校公開への参加者が増えた。	PTA 総会、「いしかわ教育ウィーク」、「生き方講演会」の保護者・地域住民の来校者数の合計が、 A 1,200 人以上 B 1,000 人以上 C 800 人以上 D 800 人未満	C・D の場合、PTA と協力して広報活動に努める。	PTA 総会 (5/18) いしかわ教育ウィーク (11/1~7)
	② 理数科 1・2 年生や科学系の部所属の生徒が「創立記念祭における理科教室」、「中学生サイエンスフェア」及び「高校生による青少年のための科学の祭典」等の、小・中学生を対象にした理科教室に参加することで、科学教育の面から地域に貢献する。	SSH 推進室	昨年度は、理数科 1 年生が、「創立記念祭」に来校した小・中学生に対して「理科教室」を開催し、参加者から好評を得た。また、科学系の部所属の生徒が、「中学生サイエンスフェア」等において、理科実験の説明及び解説を行い、科学教育の面から地域に貢献している。	【満足度指標】 「理科教室」の運営を通して、生徒の地域貢献に対する意識が高まる。	「理科教室に参加してみて、どう思いますか」という質問に対して「大変良かった」または「良かった」と回答する理科教室の参加者の割合が A 90 % 以上 B 80 % 以上 90 % 未満 C 70 % 以上 80 % 未満 D 70 % 未満	D の場合、次年度に向け、取組の改善を検討する。	参加者へのアンケート調査を実施
	③ ホームページの更新を定期的にを行い、各種行事・部活動・SSH の様子や教育課程・進路などの情報を、よりわかりやすく発信する。	情報管理室	各課室、学年、部活動顧問からの情報の提供によって、ホームページの更新頻度が上がっている。学校行事や生徒の様子がよく分かるように、内容を充実させ、情報の鮮度でも満足できるように努めている。	【満足度指標】 「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という保護者が増加した。	「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という項目の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が、 A 90 % 以上 B 80 % 以上 C 70 % 以上 D 70 % 未満	C・D の場合、ホームページの内容の改善を検討する。	保護者へのアンケート調査を実施
	④ 「学年だより」、「進路だより」等を通じて、生徒の学校での様子を伝えるとともに、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。	1 学年 2 学年 3 学年	学校メール配信などによって、保護者に対する緊急連絡は随時されているが、それ以外の方策も加えることにより、学校を親しみやすいものとし、さらに保護者の学校行事参加等を促すことで連携を強める必要がある。	【満足度指標】 学校からのたより・通信等は学校の様子についてわかりやすく伝えているとする保護者の割合が高い。	学校からのたより・通信等は学校の様子についてわかりやすく伝えているとする保護者の割合が、 A 90 % 以上 B 80 % 以上 C 70 % 以上 D 70 % 未満	C・D の場合、次年度に向け、内容の改善を検討する。	保護者へのアンケート調査を実施